

東京人

6月増刊

2013 no.326

700yen

中野を 楽しむ本

私とこのまち

イルカ シンガーソングライター

青井忠雄

丸井グループ名誉会長

みつはしちかこ マンガ家

夏目房之介

コラムニスト

座談会

キリンビール株式会社
代表取締役社長

中野区長

落語家

磯崎功典 × 田中大輔 × 林家たい平

歴史的な再開発で、

中野の「飛躍」が見えてきた

今宵、BARで 椎名誠

落語家

林家正蔵 × 太田和彦

グラフィックデザイナー

ほろよい居酒屋紀行



雑談からはじまった ジャズ祭が地域最大の イベントに成長。

昨

年の九月八日、沼袋氷川神社で「NUNO JAZZ FESTA（ヌーノジャズ

フェスタ）2012」が開かれた。平成十九（二〇〇七）年にスタートしたこのイベントを企画したのは、野方在住の辰巳まゆみさんと沼袋在住の近藤房子さん。そもそものはじまりは、沼袋駅前のジャズバーでの会話だった。

「ふたりともジャズが大好きなんです。子どもを持つと女性は生でジャズを楽しむ機会がほとんどないんですね。まちおこしも兼ねて、女性や子どもが気軽に楽しめるジャズ祭をしようよ、という話で盛り上がったんです」（沼袋・野方まちおこしジャズ実行委員会・辰巳まゆみさん）

ふたりが住んでいる沼袋と野方から「NUNO JAZZ FESTA」と名付け、第一回目は女性と子ども限定

で開催した。翌年からは誰でも参加できることにして、クリスマスコンサートにしたところ、約二百人が集まった。

「三回目からは場所を沼袋氷川神社にしたんですが、『クールビズジャパン』というテーマで浴衣姿の方はビール一杯無料のサービスをしたところ、観客は一気に千五百人に増えました」

観客数は回を重ねるごとに増え続け、四回目は三千五百人、五回目の去年は四千人以上と、どちらも神社の夏祭りの人出を上回った。

「未来を担う子ども」をテーマにした去年の第五回は、神楽殿を舞台に日中は地元の小中高生や大学生が演奏やダンスを披露し、夕方からは実力派のピアニスト兼シンガーのグレースマーマヤや安川大樹らプロのジャズアーティストが競演。境内には地元の店や団体がブースを出店し、沖縄、フランス、イ

上・「未来を担う子ども」をテーマにした
前回のジャズフェスでは、地元の学生たちも演奏を披露した。
下・沼袋氷川神社の神楽殿を舞台に開催された「NUNO JAZZ FESTA 2012」。
夜はプロのジャズミュージシャンによる競演が繰り広げられた
（いずれも撮影・東京工芸大学生）



タリア料理の店などが軒を連ねた。

場所を提供している神社をはじめ、多くの人々の協力で支えられている。境内に張った約四十のテントは地元の葬儀屋が、神楽殿に敷いたシートは工務店が無償で提供。祭りの最中は消防団が境内を巡回した。女性二人の雑談からはじまったジャズ祭は、地元の商店街や町内会はもちろん、消防団や区

職員まで巻き込んで、今や地域最大級のイベントへと成長した。

「六年前には始めた時は、こんなに大きくなるとは夢にも思いませんでした。このイベントをきっかけに、いろいろな人とのつながりが広がっていくのが一番楽しいですね。将来的には、もっと広い平和の森公園で開催できたらいいなと思っています」●